

気候変動と電波伝搬

一般財団法人 電波技術協会の会報 FORN 誌に 2026 年 3 月より隔月で 4 回に亘り技術解説記事「気候変動と電波伝搬」を連載しました。近年、地球温暖化問題への関心が高まっています。ミリ波などの高い周波数が用いられる無線通信では降雨による電波の減衰が大きいため、地球温暖化が雨の降り方にどう影響するのかが無線技術者として気になるところです。もし、雨の降り方が変わってきているのであれば、将来において、降雨減衰推定法の見直しが必要になります。本シリーズでは、我が国における降雨の極値データを用いて強雨の長期変化傾向を調べた結果と降雨減衰に与える影響について 4 回に分けて解説しました。本レポートは、その全 4 講をまとめたものです。



(↓ここをクリックしてください)

第 1 講	地球温暖化時代、雨の降り方も変わった？	No. 369	2026.03
第 2 講	雨の降り方 100 年間の詳細変化を見てみよう	No. 370	2026.05
第 3 講	豪雨は今も昔も：極値統計が支配する世界	No. 371	2026.07
第 4 講	降雨減衰量変化の未来予想	No. 372	2026.09

全 4 講をひとつの PDF にまとめたもの（全体容量圧縮のためやや低品質）は[こちら](#)

（電波技術協会の著作物のため、引用の際は出典明記をお願いします）

【参考】本講はネット公開私製本「電波伝搬モデルの基礎：確率分布と統計的推定」の補足資料になっています。この目次ページは[こちら](#)